



Creative the future

Build

発行・新潟県建設業協会 上越支部 企画・編集・新潟県建設業協会 上越支部 青年部会 取材協力・上越タイムス社 問い合わせ・新潟県上越市東城町3-8-42 TEL.025-524-3122(上越建設会館内)

～ごあいさつ～

新潟県建設業協会上越支部

支部長 **清水 恵一** (株式会社清水組 代表取締役)

安心・安全な国土づくり、近年頻発する自然災害の復旧・復興のため、地域における「しっかりした建設業」の存在意義は高まっています。業界全体が安定し、いかなるときも対応できることは、業界だけでなく、工事を発注する国や自治体も認識しているところです。

しかし、建設業は人材獲得に課題を抱えてきました。公共事業が大幅にカットされた時期、新卒の採用ができませんでした。さらに建設業は「きつい」「危険」というイメージが定着してしまいました。

我々は今、業界全体で、職業として選んでもらえる環境づくりと、職場に定着してくれるための環境づくりを進めています。かつての3K(きつい、汚い、危険)から新3K(給与が良い、休暇がとれる、希望が持てる)に変わったと感じてもらえるよう、改革に取り組んでいます。

休日を楽しみ過ごす人を横目に、現場で仕事、というのは現代において家族からも、社会からも理解は得られないでしょう。業界では完全週休2日制を目指しており、導入済みの企業も少なくありません。全体が完全週休2日を完全に実現するために、発注者や企業、社会全体の理解も必要と考えています。

女性の活躍も顕著です。近年は現場監督や管理職も

誕生し、業界での女性の地位は高まっています。20年ほど前、東京の大学でようやく女性の土木技術者が輩出された頃と比べると、隔世の感があります。女性が当たり前のように現場で過ごすことのできる環境整備は、業界と発注者である自治体からの要請でもあります。

現在はIT技術やデバイスを生かした土木工事「i-construction」が推進されています。スマートフォンやパソコン、ドローンなど、若年層が得意とする技術を現場で生かすことができます。同時に、それは今後の建設業の標準的な姿になっていきます。地方でもどんどん増えていくことでしょう。「工事現場って、今までと違うんだな」と感じられる時代が来ています。

この業界に身を置く若い人たちに「自分たちが生まれ育った地域を好きになり、守っていくんだ、と思ってください」と伝えています。自分たちが暮らしながら、次の世代によりよいものを残していく。そう思えば、この仕事がいかに大切な、誇りの持てる仕事か分かってもらえると考えています。「将来の上越・妙高を守りたい」と思ってくれる若者が多く建設業を目指してくれることを、願っています。



地域発展へ「造る」「建てる」「守る」

建設業の主な仕事は、道路や橋を「造る」仕事、公共の建物や民間のビルや商業施設を「建てる」仕事、台風や地震、雪といった気象災害から社会インフラを「守る」仕事、の三つが挙げられる。地域経済や社会生活が円滑に行われるよう、現場では日々技術とアイデアが進歩している。

ここ10年間、上越地域では大きな工事が動き続けた。建設の一例を上げると、妙高市総合体育館（はね馬アリーナ、2013年）、四季彩館みようこう（2020年）、上越妙高駅（2015年）、上越市立水族博物館（2018年）、謙信公武道館（2019年）、高田城址公園オーレンブラザ（2017年）、上越地域消防局（2020年）、上越体操場（ジムリーナ、2019年）、上越市立有田小学校（2018年）。道路では上越三和道路寺IC～鶴町IC間（2019年）、上信越自動車道信濃町IC～上越JCT間の4車線化（同）などが挙げられる。いずれも地元の建設業者がなければ完成しなかったものだ。

また昨年の台風19号をはじめ、近年頻発する台風災害や毎年の除雪でも、その技術力とスピードが発揮されている。災害では昼夜を問わず復旧作業を続け、除雪では24時間車が行き交う国道から地域の生活に欠かせない細い道まで、市民生活や物流が滞らぬよう、細心の注意を払って作業を続けている。



昨年の台風19号で千曲川の堤防が破堤し、甚大な被害を受けた長野県。いち早く現地に向かい、復旧に当たったのも上越地域の建設業者だった（2019年10月）



天候の変化は昼夜を問わない。除雪車がフル稼働で市内の円滑な交通を確保している（2018年2月）



上越三和道路寺IC～鶴町IC間の道路工事。前日までに降った雪をかき分け、発泡スチロールブロックによる盛土工事が進んだ（2017年12月）

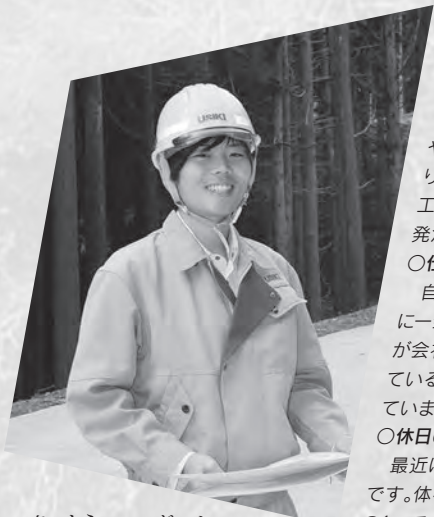


台風に伴う豪雨で崩落したのり面の復旧作業。道路が狭く輸送が不便な場所ほど、土木の力が人の生活の支えになる（2019年10月）



小猿屋小学校と春日新田小学校の一部が統合し、上越市立有田小学校が新設（完成2018年4月）
地域の未来を担う子どもたちの学び舎が完成。発電設備や避難所としても活用できる体育館などをそなえる。

若い力が各社で活躍しています



さいとう だいや
齊藤 大也さん

■株式会社牛木組 工事課
26歳
新潟県立糸魚川高等学校 普通科
松本大学 人間健康学部

○仕事についたきっかけ・仕事内容

大学在学中から地元企業への就職を希望し、会社や現場見学を通して、構造物ができる工程やものづくりに魅力を感じ建設業に就きました。現在は公共土木工事の管理者として、現場を任されています。資材の発注や工程管理、書類作成などを行っています。

○仕事の魅力

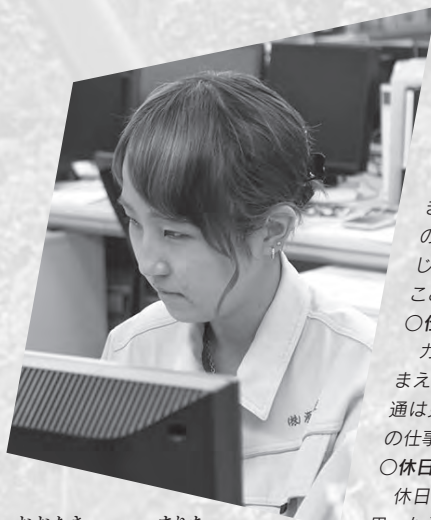
自分で行った測量や図面通りに工事が行われ、正確に一致したときの達成感は格別です。チームでの仕事が会社全体の評価や地域の方からの信頼に結び付いていると考え、緊張感を常に持って日々の業務を行っています。

○休日の過ごし方

最近は行けていませんが、旅行に出かけるのが好きです。体を動かすことも好きなので、フットサルも趣味の1つです。

○後輩たちへのメッセージ

独り立ちできるまで年数の掛かる難しい仕事ですが、身に付けた技術は一生ものの自分の財産になります。また、自分がした仕事が形に残り、人々の役に立ち、生活を支える魅力的な仕事です。



おおたき まりあ
大滝 茉莉亜さん

■株式会社源建設 管工部
22歳
上越総合技術高校卒

○仕事についたきっかけ・仕事内容

自宅から近く、人間関係が良い会社だと聞いて選びました。現在は管工部でガス・水道管の入れ替え工事の監理業務に携わっています。機械や材料の発注をはじめとした段取りや書類作成が主な仕事です。先々のことまで考えて仕事をしていくのが大事です。

○仕事の魅力

ガス・水道管は地下に埋めるので、できあがってしまえば一般の人には見ることはできません。その「普通は見えないところ」に関わることができるのが、この仕事の魅力です。

○休日の過ごし方

休日は完全にオフです。仕事が間に合わないなど思ったら、勤務日に朝早く出社して終わらせるように心がけています。

○後輩たちへのメッセージ

人と話すのが好きな人が向いていると思います。さまざまな年齢や立場の人と関わることができるので、面白いと思います。



かた かおり
片 香織さん

■株式会社山崎建設 土木部管理課 主任
34歳
上越総合技術高等学校 土木科
東海大学 工学部土木工学科

○仕事についたきっかけ・仕事内容

工作やものづくりが好きだったので、上越総合技術に進学し、高校の授業で行った測量や土木に関わる実習が楽しく大学へ進んでも土木工学科を専攻しました。地元で働きたいという希望からUターン就職しました。現在は、現場管理者として発注者や協力業者との打ち合わせ、予算・工程管理などの業務を行っています。

○仕事の魅力

作業者と一緒に行う達成感や工事を行っている地域の人から、「ありがとう。きれいになったね」と感謝されることがやりがいです。育児との両立の日々ですが、会社からのサポートもあり充実した仕事できています。

○休日の過ごし方

育児中なので子どもと過ごす時間を大切にしています。もう少し余裕ができれば、趣味の手芸も楽しみたいです。

○後輩たちへのメッセージ

業界全体の年齢構成が上がつてきていることもあり、若い人がいるだけで社内も現場も活気が出ます。一緒に私たちと働きましょう！



いくら ゆう
伊倉 悠さん

■市川建設株式会社 工事部
26歳
上越総合技術高等学校 土木科

○仕事についたきっかけ・仕事内容

建設業で働く父の姿を見て、高校も土木科へ進みました。新卒で建設業に従事し、一時期、全く別の業種にいましたが、やっぱり建設の仕事がもう一度したいと思い、現在の仕事に就いています。仕事内容は、発注先の市や町内会の方との打ち合わせ、書類づくりや工程管理などを行っています。

○仕事の魅力

自分の仕事が形に残り成果が見えることが魅力です。現場ごとに違う環境や条件で工事を行うため常に新鮮な気持ちで仕事ができます。多くの人と関わりながら仕事を行う点もやりがいの1つです。

○休日の過ごし方

バイクツーリングや、ずっと続けている楽器演奏が楽しみです。コロナが落ち着いたら、弾き語りのライブも再開したいです。

○後輩たちへのメッセージ

人とのコミュニケーションやものづくりに興味がある、自分の身に付けた技術を仕事に生かしたい人に向いている仕事だと思います。季節を感じ、自然の移り変わりを一緒に感じましょう！



おおしま まお
大嶋 麻央さん

■株式会社大島組 土木部
25歳
上越総合技術高校卒

○仕事についたきっかけ・仕事内容

建設業に詳しくたわけではなく、仕事内容も漠然としか把握していませんでした。「重機に載ったり、スコップを持って仕事をするのかな」と考えていました。現在は施工管理に携わっています。測量をしたり、書類を作成したりしています。

○仕事の魅力

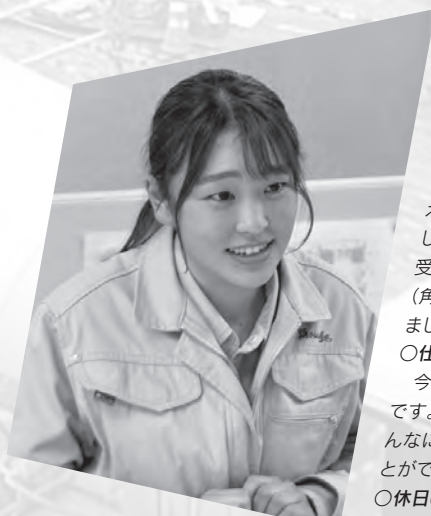
携わった工事が完成したときの喜びは魅力です。みんなで作り上げたものが残って、見に行くことができるのもやりがいだと思います。

○休日の過ごし方

完全週休2日制ですが、現場が動く日は出勤して、代休を取ることがあります。休みの日でも現場のことが気になるときもありますね。

○後輩たちへのメッセージ

外で働きたい、体を動かしたいという人に向いていると思います。建設業にはいろいろな年齢の人がいますし、地元の町内会さんや協力会社の人たち、行政の方々といった多種多様な立場の人とコミュニケーションすることがあります。人と関わるのが好きな人には格好の職場だと思います。



たけうち ほのか
竹内 萌乃香さん

■株式会社保坂組 建築部
19歳
上越総合技術高校卒

○仕事についたきっかけ・仕事内容

高校で建築を学んだので、仕事でも生かしたいと考えて選びました。会社としては久々の女性採用で、歓迎してもらえました。仕事は施工監理で、先輩の指導を受けながら毎日勉強しています。CADやトランジット(角度を測定する機器)がうまく使えるようになってきました。

○仕事の魅力

今まで分らなかったことが分かったときは嬉しいです。現場の経験はとても浅いのですが、大きくて、みんなに使ってもらえるような建物を作るのに携わることができたらいいな、と思っています。

○休日の過ごし方

現場が動く日は出勤して代休を取ります。買い物をしたり、自分のための時間に使っています。

○後輩たちへのメッセージ

母校で後輩たちに話をする機会があり、それをきっかけに1人入社してくれました。向いているのは外で体を動かすのが好きな人、細かいことまでよくよい人だと思います。

担い手育成・業界PR(イメージアップ)活動を展開

Spin the future of the construction industry

建設現場見学会

新潟県建設業協会 上越支部 青年部会 担い手育成事業

現在の建設業を知ってもらうため、地域の高校生を対象とした建設現場の見学会や体験、授業に青年部から講師を派遣した「仕事講座」を行っています。実際に建設中の現場を案内し、建築物や構造物がどのように誰の手によって造られているかを見てもらうことで、道路や橋などの地域の生活を支える欠かすことのできない重要な仕事であることを伝えられたらと思っています。仕事講座では、各社の社員が高校へ訪問して、業界の現状や働く意義などについて、高校生に授業を行っています。



「生活するうえで当たり前」を守ることが私たちの使命であり、物流を支える道路や橋、空港、冬季の除雪、

各社社員の指導を受け実際に作業する高校生

昨今は、人手不足・高齢化などの社会情勢もあり、人材育成や後継者確保、業界全体のイメージアップなどにも積極的に取り組んでいます。

[illegible]